

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190502963), 法人名 (医療法人社団 翔嶺館), 事業所名 (グループホーム厚別東館), 所在地 (札幌市厚別区厚別東4条2丁目2番30号), 自己評価作成日 (2023.3.7), 評価結果市町村受理日, 令和5年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である【笑顔輝く安らぎの家】に基づいて『自宅』のように一人一人のペースで自由に過ごせるよう支援しています。職員は、レクリエーション、行事、共用スペースの装飾には特に力を入れています。入居者様の笑顔が輝く様、職員は毎日何をしたら楽しんでくれるだろう、どんな料理を作れば喜んでくれるだろうと考えながらケアをしています。館の裏には畑があり、季節のお花やお野菜を入居者様と一緒に育てています。畑にいと時々地域の方も声をかけてくださって、楽しいひと時を過ごすことができています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0190502963-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年3月24日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2020年12月にオープンしている事業所で、目の先には母体である医療機関があり緊急時等で協力が得られ、利用者や家族、職員にとって大きな存在となっている。コロナ禍により様々な弊害が生じているが、地域とは良好な関係を構築している。運営推進会議は書面としているが、事業所の運営状況等の報告と共に推進委員や家族に向けたミニ研修として、服薬の基礎知識や心肺蘇生など資料を添付して議事録を届けている。新年会は特別食で祝い、カルタを楽しみ、書き初めの作品を手に持ちカメラに納まっている姿を事業所便りで家族に届けている。職員は五感を働かせて利用者の全体像を把握し、利用者の笑顔が輝く日常でありたいと心身の寄り添いが続いている。管理者は、コロナ禍収束後は地域や家族交流の強化、自由な面会や行事など生活の活性化に向け、職員と検討する意向を示している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔輝く安らぎの家」を事業所理念とし、フロアに掲示。入居者様が笑顔になったり、安らいだりできるように毎日のレクや行事を考えたり、環境整備に努めている。	開設時に「三世代の家」の意味合いもある理念を策定し、ケアプランを始め全てのケアに反映している。コロナ禍による自由な外出や面会等に制約がある中、行事担当者を中心に室内レクリエーションの充実を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で十分な交流はできていないが、畑に出ている時に近所の方とあいさつを交わしたり、近所の方にお花をいただいたりして地域とのつながりを確保している。	現在、町内会の活動も自粛状況にあるが、地域情報誌を通じて地域の動向は得られている。近所とは挨拶を交わし、花や山菜の差し入れがあるなど良好な関係にある。入居相談があるときは、丁寧に説明をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の人とは交流できていないが、ご家族や運営推進会議のメンバーには、議事録に認知症の理解について資料をつけて読んでいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で文書開催となっている。ご家族、地域代表、地域包括支援センター職員等に議事録、意見を求めるアンケートを送付している。	会議は書面で行われ、利用者状況や事故・ヒヤリハットの有無、推進委員や家族に向けたミニ研修(服薬の知識など資料を添付)等を議事録にまとめ、地域代表や地域包括職員、家族に送付している。推進委員から感染症予防対策等に激励の言葉が寄せられている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や生活保護課などとは区役所窓口や電話で相談するなど連絡を取り合っており、協力関係を築くよう努めている。	市や区の担当部署とは法人職員や管理者がそれぞれの事案で担当者を訪問したり、電話やメールで関わりを持ち円滑な運営に繋がっている。利用者の状況調査等で来訪の行政職員とは情報交換を行い、利用者の安定した生活を支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が身体拘束適正化委員会を設置し、3か月に1度の委員会と年に2回研修を行っている。また、入社時にも身体拘束についての研修を行い、職員全員が具体的な行為を理解・再確認を行い、ケアにつなげている。玄関は夜間のみ防犯上の理由から施錠している。	身体拘束や虐待をしないケアの周知徹底を図っている。法人主催の適正化委員会や研修会を適宜開催し、参加した職員からの伝達により、職員は拘束や虐待による弊害を十分理解してケアに臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時研修などでマニュアルを用いて高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持っている。法人が行う研修に参加した職員が全職員に周知研修を行っている。不適切な言動があれば、直ちに指導を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる入居者様はいないが、制度については管理者が理解し、必要時に利用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は重要事項説明書に基づき説明を行い、不安や疑問を十分に話し合ってから行っている。解約、改定の時にも説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には日々困っていることがないか等聞き取りしている。家族との連絡を密にとり、意見や要望があった時には申し送りノートなどを使い周知している。玄関には意見箱を設置している。	家族には毎月事業所便りと個別の写真を送付し、さらに1年間の日常の様子や行事等をDVDにして家族に届け好評を得ている。電話やメール、面会時で家族の要望を傾聴している。利用者の意向を家族に伝え解決に繋がる事例もあり、連携して利用者を支えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ユニット会議を行い意見や提案を受けている。日常のコミュニケーションや定期的な面談で聞き取りや話し合いをして意見を反映させている。	職員一同が利用者にとって事業所が心地良い場所でありたいとチームケアで寄り添いの支援が続けられている。管理者は、働きやすい環境整備に努めており、職員の意見や提案を運営の向上や業務の改善に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休の回数制限をなくしたり、希望の労働時間に働けるようにするなど条件の整備に努めている。休憩室で足を伸ばして休憩できるようにラグをひくなど環境整備もしている。行事などは担当を決めて任せるなどやりがいにつなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修や実務者研修、認知症介護実践者研修、スキルアップ研修・中堅研修などを受講させスキルアップができるように取り組んでいる。ケアで困っている様子の時にはお手本を見せたりアドバイスをその都度している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流は少ないが、法人が行っている研修会でのグループワークなどで他館の職員と交流する機会があり、そこで意見交換をするなどし、サービスの質の向上につなげる様努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前にご本人と面談を行い、出来る限り不安解消、要望に応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にご家族に来館していただき、館内見学・面談を行い、出来る限り不安解消、要望に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人、ご家族の意向伺い、訪問歯科、訪問理美容、オムツサービスなどのサービスも利用できるよう提案、手配など努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力や残存機能、好みに合わせ調理、掃除、畑仕事、雪はねなど活躍していただき、役割や生きがいを持った暮らしができるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ひがしかん通信や写真を送付し、電話やメールで近況報告や情報交換行っている。ご本人と電話で話してもらったり、手紙をもらう、送るなどして関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出や面会ができず、受診する病院を、本人が住んでいたところの最寄りにして車で近所を通ったり、電話や手紙を通じて関係が途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍により外出や面会は自粛下にあるが、家族や馴染みの人達とはガラス越しの面会や電話、手紙の取り次ぎ等、関係性を大切にしている。他科受診は、意識的に利用者の居住していた場所の医療機関に同行支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って話を盛り上げたり、集団でゲームをするなど利用者様同士がかかわれるような環境を提供し支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも連絡してほしいと声掛けしている。入院退居などの場合は、経過を電話でお聞きして相談があれば受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や様子から本人の意向や思いを汲みアセスメントし、生活歴や家族からの情報をもとにカンファレンスを行い、本人本位となるように努めている。	日々、利用者の言語や非言語でコミュニケーションを取り、また、家族からの情報を手掛かりに意向の把握に努めている。冬場に利用者の一人が苺を食べたいとの要望があり、管理者は買いに出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から生活歴や暮らし方、ご家族のことなどの聞き取りを行い、ご本人の生活背景を知ることによってケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせた生活をベースに、心身状態、有する力が損なわれないよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者がモニタリングを実施し、それをもとに、カンファレンス、ご家族の意向、要望を聞き介護計画を作成している。	毎日モニタリングを行い、支援目標の実践を確認している。ケアプランの定期的見直しや状態変化時には利用者や家族の意向を踏まえて策定したケアプランの原案を職員全員で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を作成し、申し送り含め職員間で共有している。また記録からもニーズの変化を見つけ、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が忙しい時や不安な時には受診付き添いを行う、体重増加に伴い体操の回数を増やす、いつもの食事以外に食べたい物を聞き取り買い物代行するなど、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で会議や交流がほぼ無い。地域資源の把握もできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から週1回の訪問相談、2週間に1回の訪問診療がある。希望される病院がある場合、ご家族に対応をお願いしているが、緊急時やご家族が不安な時は職員が同行している。	入居時に、母体である医療機関から2週間毎の往診や週1回訪問看護師による健康チェック体制を説明している。殆どの利用者は協力医の訪問診療を選択し、他科受診は家族と連携して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問相談があり、看護師に日常の変化や状況を相談し、医師と情報共有し、必要に応じて受診や検査ができるよう支援している。体調の異変は早期に発見し、即時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面や口頭で情報提供を行っている。入院中は週1回以上看護師などと情報交換を行っている。状態変化などを把握し、できるだけ早期に退院できるよう、受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し同意を得ている。主治医の指示を仰ぎながら、できる限り終末期まで支援している。	重度化や看取りに対する方針は、入居時に指針で出来る事出来ない事を説明して理解を得ている。主治医や家族と段階的に情報を共有し、限界まで支援を行っているが、最終は生活拠点を移動している。マッサージ資格を有している職員が、アロマオイルを使い利用者の心身を和らげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルやフローチャート作成し、ユニット会議などでも定期的に話をしていく。実践力はまだ身についておらず、訓練が必要。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は、夜間想定、地震想定など行っている。災害時の水、食料、発電機なども整備している。地域との協力体制についても定めている。	消防署の協力を得て、年2回日中・夜間想定火災避難訓練と年1回地震想定避難訓練を実施している。避難場所は近くにある母体の医療機関とし、経路も確認している。BCP(業務継続計画)に基づいての訓練後は、課題を洗い出し次回の訓練に生かしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけたり、尊厳を損なうことがないような言葉かけをするよう、会議などでも確認しあって対応している。	理念「笑顔輝く安らぎの家」の実践に努め、さらに接遇研修においても正しいケアのあり方を学んでいる。管理者は、馴れと親しみの違いを職員に説明しているが、職員間でも注意し合える関係にある。個人記録の取り扱いも適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が判断することなく、自己選択・自己決定ができるようお伺いしている。意思疎通の難しい方は、表情やしぐさからも選択をくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースや体調、気分を大切に、一日一日を笑顔で過ごせるように、支援している。自己決定に戸惑う方には、選択肢をたくさん提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の手配、化粧品類の購入やセッティングなど、一人一人の希望に沿うように支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お弁当の日や行事の特別食などで楽しめるよう努めている。肉が嫌いな方は代わりに魚などの対応もしている。ご本人の能力に合わせ、日常的に食材の皮むき、食器拭き、料理の盛り付け、茶碗洗いなど一緒に行っている。	献立と食材は業者から届くが、味付けは職員が腕を振るい利用者の食欲の一端を担っている。四季折々の行事には、ローストビーフや唐揚げなどを作り、時にはバイキング方式、出前、テイクアウト等で目先を変えている。誕生日はケーキでお祝いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成したメニューで食事提供している。食事量、水分量も記録し、必要に応じて促しや介助を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアの声掛け・介助、寝る前に義歯消毒の声掛け・介助を行い、口腔衛生に努めている。嚥下体操も行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握、トイレの間隔が長い方などは声掛けで促しや誘導を行い、失敗を減らせるよう支援している。	夜間のみポータブルトイレの使用やベッド上での支援もあるが、自立排泄への見守り、時間誘導を行い、重度化でも要望がある限り複数介助でトイレでの排泄を支援している。衛生用品は利用者や家族と相談の上使用するなど、利用者の状況に応じた支援が行われている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取するよう促し、毎日体操で体を動かす機会を設けている。また主治医や薬剤師にも相談し、アドバイスをもらい支援につなげている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔保持の為基本は週2回の入浴としているが、気分や体調に応じて入浴できるよう、時間や曜日を決めず支援している。	入浴は週2回を目安に1人入浴の見守り、リフト浴など利用者の状態に合わせて午後から支援している。湯加減や回数、同性介助、入浴拒否の要望を受けとめている。入浴中は本音や歌が聞け、情報は職員の共有としている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の習慣の有無や、その日の体調、様子を見て休息できるよう支援している。夜間の入床時間はご本人のペースに任せている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報がいつでも確認できるよう、薬情をいつでも見られるように整備してある。薬についての知識の研修も行って変化に気づけるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴で趣味や得意なことが継続して行えるよう支援している。趣味の無い方、できなくなってしまった方も気分転換で外に出たりできるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、ご家族や地域の人との外出支援は行えていない。ご本人の希望に合わせ、畑へ出たり、近所の散歩、ひなたぼっこなどは支援している。	コロナ禍により以前の様な外出は困難な状況にありながらも、利用者の体調や天候を見極め、玄関前での日光浴、畑の野菜や花の世話を行いながら成長を眺め、周辺の散歩、サイクリングロードの桜並木を見物している。外来受診や医療デイサービスの利用時も外出と捉えている。	管理者は、コロナ禍収束の兆しが見えてきており、感染状況を見定め少しずつ以前の生活に戻り、可能な外出支援を検討する意向を示しているため、その実現に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出ができず、お金を使う事が無い為支援していない。金銭の所持は共同生活への安全上して頂かないよう協力していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の状況に合わせて、可能な範囲でかける、取次ぐ等支援している。届いた手紙やはがきはお渡ししている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音の大きさや温度に配慮してこまめに調整している。飾りつけや、手作りカレンダー、貼り絵などで季節感を採り入れている。場所がわかる目印の設置も行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用部分は、快適な生活空間になっている。全てが余裕あるスペースで、リビングには食卓コーナーとソファコーナーを設え、利用者は自分の居場所で寛いでいる。行事の写真や利用者と一緒に制作した桜の木を貼り、一足早い花見を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやミニテーブルもあり、利用者様一人一人が自由に過ごせる空間づくりを行い工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とも相談し、使い慣れたものや馴染みのもの、お気に入りのもの、写真などお持ち頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、クローゼット、パネルヒーター、ナースコールを備えている。ベッドや整理ダンス、三面鏡、ぬいぐるみ、写真等が持ち込まれている。手作りの日本人形や羽子板を飾っている利用者もおり、それぞれの個性が出ている部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を徹底し、トイレや各個人の居室、そのほか部屋にも案内板を作り、迷うことが無いようにし、自立支援に努めている。		